

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和5年1月25日

「わが村は美しく-北海道」運動 コンクール募集開始

～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を募集します～

北海道開発局は、「わが村は美しく-北海道」運動（以下「わが村運動」）第11回コンクールへの応募団体を下記のとおり募集します。

北海道開発局では、北海道内の農山漁村において、地域の活性化に貢献する住民主体の活動を支援し、農山漁村の発展に寄与することを目的に「わが村運動」を推進しています。

わが村運動の一環として、平成13年から2年に一度のサイクルでコンクールを開催しており、この度、第11回コンクールの応募団体を募集します。

【募集期間】 令和5年1月25日（水）から令和5年6月30日（金）まで

【応募対象】 北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む活動を対象とします。別紙1～2

なお、コンクール応募用紙は北海道開発局ホームページ又は各開発建設部で配布しております。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

詳しくは、北海道開発局農業水産部農業振興課又は各団体が活動する地域の開発建設部土地改良情報対策官までお問い合わせください。別紙3

<添付資料>

- 別紙1 : コンクール募集広告
- 別紙2 : コンクール応募要領
- 別紙3 : コンクールの流れ（予定）、応募先・お問合せ先
- 別紙4 : これまでのコンクール受賞団体（小樽ブロック）一覧
- 参考1 : 「わが村は美しく-北海道」運動の概要とこれまでの取組
- 参考2 : 第10回コンクールの受賞団体

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

土地改良情報対策官

相澤 俊也（電話 0134-23-5127）

土地改良情報対策官付 土地改良情報係長 萩中 政貴（電話 0134-23-5232）

小樽開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>



「わが村は美しくー

北海道」運動

第11回コンクール



写真(背景):(一社)北海道土地改良設計技術協会主催
「北の農村フォトコンテスト」応募作品
写真提供(大賞団体):北のなのはな会
ほんべつ豆まかナイト実行委員会

応募団体募集！！

応募締切 令和5年6月30日(金)

1. 目的 このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村がより「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見出し、これを広く発信し、波及させていくことによって、農山漁村の振興に寄与することを目指します。
2. 応募対象 北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって地域づくりに取り組む活動を対象とします。
3. 応募用紙 以下の北海道開発局のホームページから入手できます。また、各開発建設部でも配布しております。
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html
4. 応募方法 上記より入手した応募用紙にご記入(ご入力)の上、下記①または②の方法からご応募ください。
① 下記アドレスに応募用紙を添付しご応募ください。
hkd-ky-wagamura.u@gxb.mlit.go.jp
② 活動団体の所在地を管轄する各開発建設部に送付又は持参にてご応募ください。
5. 応募期間 令和5年1月25日(水)から令和5年6月30日(金)まで
6. 賞について ■大賞 全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動を選考します。
■優秀賞 応募していただいた団体の中から優秀な活動を選考します。
■奨励賞 将来性や継続性から奨励する活動を選考します。
7. 受賞団体の発表 「優秀賞」・「奨励賞」については令和6年1月頃、「大賞」については令和6年10月頃に発表します。

応募の詳細は
北海道開発局HPを
ご覧ください



【主催】北海道開発局

【共催】北海道、NPO法人わが村は美しくー北海道ネットワーク

【後援】北海道総合通信局、北海道財務局、北海道農政事務所、北海道森林管理局、北海道経済産業局、北海道運輸局、北海道市長会、北海道町村会、北海道土地改良事業団体連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道日本型直接支払推進協議会、北海道漁港漁場協会、北海道木材産業協同連合会、(公財)北海道地域活動振興協会、(公社)北海道観光振興機構、(公社)北海道栽培漁業振興公社、(一財)都市農山漁村交流活性化機構、(一財)HAL財団、(一社)北海道商工会議所連合会、(一社)北海道消費者協会、(一社)北海道土地改良設計技術協会、(一社)シーニックパイウェイ支援センター、(一社)日本コミュニティ放送協会北海道地区協議会、NPO法人「日本で最も美しい村」連合、オーライ！ニッポン会議、学校法人北海道科学大学、北海道旅客鉄道(株)、(株)北洋銀行、(株)AIRDO、(株)リクルート北海道じゃらん、生活協同組合コープさっぽろ、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道新聞社、十勝毎日新聞社、日本農業新聞北海道支所、NHK札幌放送局、HBC北海道放送、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、UHB北海道文化放送、TVHテレビ北海道

『わが村は美しくー北海道』運動 フェイスブック

フェイスブックは
こちらのQRコードから→

あしたを創る 北の恵

北海道開発局

■お問い合わせ先

北海道開発局農業水産部農業振興課
〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
TEL 011-700-6768 FAX 011-709-2145
E-mail hkd-ky-wagamura.u@gxb.mlit.go.jp



【第 11 回コンクール 応募要領】

コンクールの趣旨

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村がより「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見出し、これを広く発信し、波及させていくことによって、農山漁村の振興に寄与することを目指します。

応募対象

北海道の農山漁村において、農林水産業の生産活動との関わりがあり、地域住民が主体となって、地域づくりに取り組む次のような活動を対象とします。

- 目的や内容に以下の要素のいずれかを含み、これらを活かして地域の活性化に貢献している活動。
 - ・「生産と生活に根ざした景観の形成（景観）」
 - ・「地域で生産される農林水産物を活かした特産物づくり（地域特産物）」
 - ・「地域内交流の活発化や都市住民等地域外との交流（人の交流）」

「活動の参考例」

- 地域をあげて景観緑肥による土づくりに取り組むことによって、安全・安心な農作物を生産し、特産品化に繋げている。
- 就労継続支援事業所などから、精神・知的障がいを持つ利用者を施設外就労として受け入れ、作物生産や加工品の製造・販売を通年でやっている。
- 間伐材を利用した製品の製造、販売を行いながら、地域の森林資源を守り地元の雇用も創出している。
- 地域の景観を形成している地場産の農林水産物を主材料として、生産者と商工会等が共同で新たな商品開発に取り組み、地元の農山漁村景観や農林水産物の良さを発信している。
- 生産活動によって作られる農村景観と農産物を結びつけて、消費者や子供達との体験型の交流活動を行い、農業と農村の良さを伝えている。
- 学校の活動で生徒自ら生産した農畜産物を用いて、食品の加工製造に取り組み、地域の商工会などと連携し、まちの活性化に影響を与えている。
- 地元の水産資源を使い、生産者の意向を反映した加工品の製造・販売を行うほか漁業体験、食育活動を通じて地域の振興に取り組んでいる。

応募資格

- ① 住民が主体となって活動している団体であること。団体とは、任意団体のほか、NPO法人、協同組合、商工会・商工会議所、学校等を含み、企業単独、個人単独の活動は除きます。ただし、企業、個人単独であっても、その活動が地域の他の団体と連携した活動であって、地域との繋がりが明確に認められる場合は対象とします。
- ② 複数のグループで構成している場合も含まれます。
- ③ 活動範囲が複数の市町村にまたがる場合も含まれます。

※なお、次のような団体の応募は認められません。

 1. 暴力団そのもの又は暴力団やその統制下にある団体。
 2. 宗教活動や政治活動を主な目的とする団体。
 3. 特定の公職の候補者や政党を推薦し、支持、またはこれらを反対することを目的とする団体。
 4. その他、公序良俗に反する団体。

賞について

大賞 全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動を選考します。

優秀賞 応募していただいた団体の中から優秀な活動を選考します。

奨励賞 将来性や継続性から奨励する活動を選考します。

審査基準

次の審査項目に基づき「景観」、「地域特産物」、「人の交流」の3つの要素との関わりを含め、総合的に評価します。

- ① 農林水産業の生産活動との関係性
- ② 活動に対する地域住民の主体的関与の度合い
- ③ 継続性・持続性
- ④ 地域住民の理解の度合い
- ⑤ 個性・独創性
- ⑥ 地域活性化への効果

審査方法

- 優秀賞・奨励賞については、地域の有識者等で構成する「ブロック^(※)審査委員会」により現地調査に基づき審査・選考します。
- 大賞については、学識経験者等で構成する「大賞審査委員会」により審査・選考します。

(※) ブロック ～ 各開発建設部の区域を単位とします

応募方法及び応募先

応募用紙に必要事項を記入（入力）し、北海道開発局ホームページからのご応募か、活動団体の所在地を管轄する各開発建設部に送付又は持参にてご応募ください。応募用紙は北海道開発局のホームページから入手できます。また、各開発建設部でも配布しております。詳しくは北海道開発局のホームページまたは各開発建設部にお問合せください。

わが村

検索

「わが村」で検索できます。

留意事項

- 応募用紙及び添付写真等については返却できませんのであらかじめご了承ください。
- 応募用紙の記載事項・添付写真等については、本運動の幅広いPRのための印刷物、ホームページ等への掲載に使用することを予定していますので、あらかじめご了承ください。
- 現地調査の日程については事前に連絡いたしますので、ご協力をよろしくお願い致します。
- 審査に当たり応募資料に虚偽又は受賞団体としてふさわしくない行為があったと認められた場合には、表彰を取り消すことがあります。

第 1 1 回コンクールの流れ（予定）



【応募先・お問合せ先】

応募に際してご不明な点は、北海道開発局農業水産部農業振興課又は活動団体の所在地を管轄する開発建設部の窓口までお問合せください。

開発建設部	住 所	TEL・FAX
札幌開発建設部	〒060-8506 札幌市中央区北2条西19丁目	TEL 011-611-0274
	札幌開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 011-611-4232
函館開発建設部	〒040-8501 函館市大川町1番27号	TEL 0138-42-7656
	函館開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0138-41-1141
小樽開発建設部	〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15番5号	TEL 0134-23-5127
	小樽開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0134-23-5293
旭川開発建設部	〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3番15号	TEL 0166-32-3449
	旭川開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0166-32-0958
室蘭開発建設部	〒051-8524 室蘭市入江町1番地14	TEL 0143-25-7049
	室蘭開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0143-23-5664
釧路開発建設部	〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地	TEL 0154-24-7407
	釧路開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0154-24-6843
帯広開発建設部	〒080-8585 帯広市西5条南8丁目	TEL 0155-24-3192
	帯広開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0155-24-0743
網走開発建設部	〒093-8544 網走市新町2丁目6番1号	TEL 0152-44-6870
	網走開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0152-44-2871
留萌開発建設部	〒077-8501 留萌市寿町1丁目68番地	TEL 0164-42-2381
	留萌開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0164-43-1779
稚内開発建設部	〒097-8527 稚内市末広5丁目6番1号	TEL 0162-33-1186
	稚内開発建設部 土地改良情報対策官	FAX 0162-33-1046

北海道開発局農業水産部農業振興課

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎

TEL 011-700-2311 FAX 011-709-2145 E-mail hkd-ky-wagamura.u@gxb.mlit.go.jp



ベジタブルワークス株式会社

(真狩村)

真狩村の風土を生かした特別栽培農産物を7種栽培しており、道内はもとより首都圏にも出荷し、農業を収益性のある魅力的な職業にすることを理念としています。農作物の栽培から、農業機械の開発、自社トラックでの輸送、販売に至るまで、効率的に活動しており、持続可能な農業と働きやすい職場づくりを大切にしています。



第10回
特別賞



北海道倶知安農業高等学校 日本酒プロジェクト(倶知安町)

地域の魅力ある特産品を作り地域産業の振興・発展に貢献すること、地域外国人との共生を目指して、地域活性化プロジェクト(酒米の栽培から地域の逸品「日本酒」造りへの挑戦)を始めました。また、「日本酒」造りでの副産物の酒粕の消費拡大と食品ロス削減を目指して酒粕を有効活用する活動にも取り組んでいます。



第10回
奨励賞

黒松内フットパスクラブ

(黒松内町)

地域が維持してきた北限のブナをシンボルとする黒松内町の豊かで美しい自然景観と農村景観、地域の歴史・文化を活かした歩く小径「フットパス」の活用を図ることで、町内外の方々楽しんでほしい地域の体験交流観光の発展に寄与することを目的とした活動を行っています。



第10回
NPO特別賞

北海道真狩高等学校

(真狩村)

真狩高校は、有機JAS認証圃場で農業を学ぶ「有機農業コース」と製菓衛生師の国家資格を取得でき、野菜製菓の開発を行う「野菜製菓コース」がある村立の農業高校です。ケーキ屋のない村で、高校生が主体となり、商品開発から販売までを小学生、生産者、役場等が携わり、村全体で地域特産物を作り上げながら、道の駅でカフェを運営しています。作物栽培の基本を学ぶとともに、野菜を素材とするお菓子作りから、「素材のわかるパティシエ」を目指しています。



第9回
大賞



ワインを楽しむ会

(余市町)

余市町のぶどうは、メーカーへの出荷が主のため知名度が低く、直接生産者と消費者が接する機会がありませんでした。そこで、ワインを楽しむ会では、余市産ぶどうを使用したワインのみを試飲し、ワインの普及・拡大を進めることを目的に、ぶどう農家と消費者の交流できる場を提供しています。



第9回
奨励賞

「わが村は美しく
—北海道—運動
コンクール受賞団体
～小樽ブロック～」

寿都地域マリンビジョン協議会

(寿都町)

修学旅行生や観光客を対象にした漁船乗船体験や地引き網体験等を実施し、「寿都・後志ツーリズム交流文化圏」の形成を目指しています。また、藻場の保全・再生、磯焼け対策として、地域で発生する水産加工残渣に木材チップを混合し、ペレット化した堆肥を継続して投入して、「海の森づくり」に取り組んでいます。



第8回
特別賞
第7回
奨励賞



北海道余市紅志高等学校 農業クラブ (余市町)

町の基幹産業である「果樹栽培」をはじめ、「野菜栽培」、町内を彩る「草花植栽」、農産物の加工を行う「食品製造」の4部門が連携した活動を通じて、学びを深め、地域活性化や地域産業の担い手を目指して活動しています。



第8回
奨励賞

ニセコ町農業青年会

(ニセコ町)

離農跡地等を利用して農作物を栽培し、農村景観維持のため、ひまわりを緑帯として作付しています。また、収穫体験の受入や栽培した新鮮な農産物を町内外で直売しています。本町での農業収益向上のため、平成25年よりサツマイモの試験栽培を始め、平成27年にはサツマイモの芋焼酎を醸造し道の駅等で発売しています。



第8回
奨励賞

北海道倶知安農業高等学校

(倶知安町)

倶知安町の特産品であるじゃがいもの規格外を使って商品開発を行っています。平成16年にじゃがいもに酵素を加え、ペースト状にした「ポテトペースト」を地元企業と共同で開発し特許を取得、「ぼてぶりん」などを商品化して地元菓子店が販売しています。このほか、規格外じゃがいもを細かくスライスし、牧草に混ぜ合わせて発酵させた「ポテトサイレージ」による牛の飼育など、循環型農業にも取り組んでいます。



第7回
特別賞



美国・美しい海づくり協議会

(積丹町)

磯焼けの対策として海藻食害ウニの除去作業などの藻場保全活動を、地元漁業者とレジャーダイバーが実施し、藻場の回復に向けた取り組みを行っています。森・川・海の栄養循環に着目した環境保全活動(植樹活動)など、観光業との連携や後継世代に向けた地域振興に取り組んでいます。



第7回
優秀賞
第6回
奨励賞

米-1グランプリinらんこし 実行委員会 (蘭越町)

生産者の米に対する熱い思いが、道内では生産量も少ない蘭越町で米の美味しさをPRする全国規模のイベントを北海道で初めて開催させました。コンテストの審査員は食に精通する特別審査員と公募による一般審査員で構成され、大会後には交流会も行き、町民と地域外の交流ができています。



第6回
優秀賞

赤井川村農業元気グループ Together (赤井川村)

赤井川村は、農業の営みとあふれる自然が四季折々の農村景観を形成しています。しかし、高齢化や担い手不足などにより遊休地も見られ、農業後継者として帰郷した若手青年が「大好きなふるさとのために何か出来ることはないか」とグループを結成して活動を開始しました。



第5回
景観部門
(銅賞)
人の交流部門
(銀賞)

ニセコ21世紀まちづくり 実行委員会 (ニセコ町)

2001年、まちづくりへの意見を実現するため実行委員会が結成されました。「フラワーデザイン部会」等5部会があり、花や緑にあふれた美しいまちづくりへの取り組み、ガーデンツアーの実施、農産物の朝市、商店街独自のオープンカフェ等、農業・商業・観光の新しい交流と地域産業の再生を図る活動を行っています。



第2回
景観部門
(特別賞)

黒松内ぶなの森自然学校 運営協議会 (黒松内町)

1995年に「ブナ里景観ガイドプラン」1996年に「ふるさと景観条例」を制定し、地域の景観を守り育てています。まちづくりの取組団体が連携し、活動を展開しています。1999年、一層の景観形成と、自然の保全活用をめざし「ぶなの森自然学校」が開校。同時に、町内外の有識者により同運営協議会が設立されました。



第1回
景観部門
(銀賞)

寿がき養殖部会

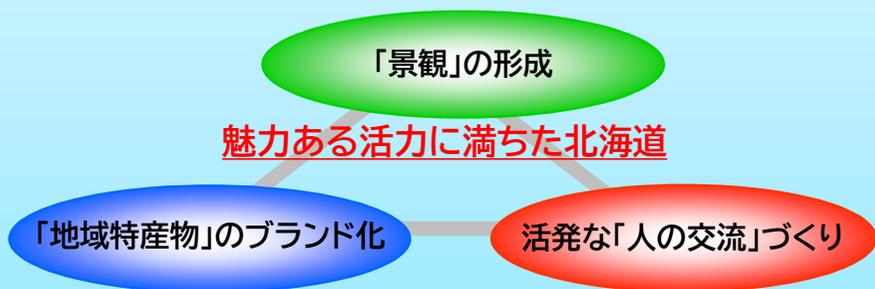
(寿都町)

カキは冬が旬と言われますが、夏(4~7月)に出荷できるマガキの養殖に成功しました。1998年より本格的に販売を開始。マガキは、寿都町の「寿」を取り「寿がき」と名づけました。市場が品薄状態の時に出荷できるため、予想をはるかに上回る売れ行きを記録。購入者のアフターケアにも力を注ぎました。



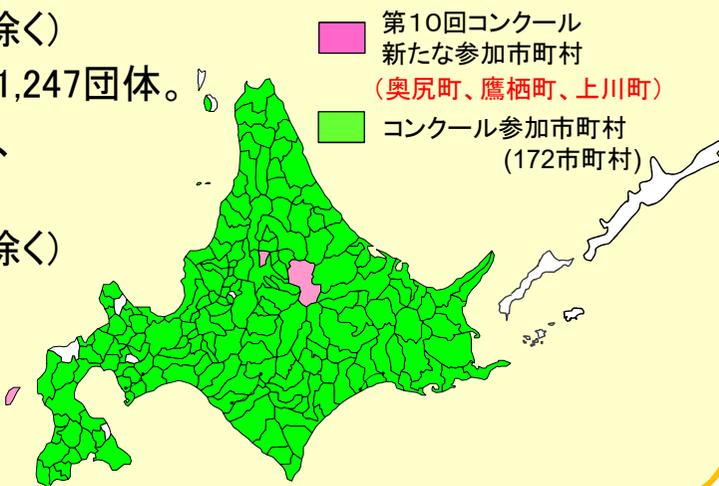
第1回
地域特産物
部門(銅賞)

- 「わが村は美しく-北海道」運動(以下「わが村運動」)は、北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源(景観・地域特産物・人の交流)を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていこう、との思いから生まれました。
- 平成13年度から今日まで、コンクールの開催を中心に、道内各地における地域資源を活用した住民活動に光を当て全国に発信するなど、様々な方法により支援を続けています。



コンクールの概要

- 第10回コンクールでは75団体が応募。新たに3町からの応募が加わり、全道179のうち172市町村(96%)が参加。
- これまでのコンクール参加団体数は、871団体。
(複数応募を除く)
延べ応募数は、1,247団体。
- 受賞団体数は、
延べ299団体。
(複数回受賞を除く)



多くの人に伝えるための取組

- ホームページへ掲載
→活動団体の最新情報を広く発信。
- メールマガジンの配信
→活動団体への情報提供。
→活動団体の最新情報を発信。
- 各種広報誌での情報提供
→「The JR Hokkaido」等への掲載。
(JR北海道の協力)
- 地域イベントで活動PR
→地域イベントで団体活動を紹介。
- パネル展でPR
(北洋銀行との連携)
- Facebook(フェイスブック)の取組
→活動団体の最新情報を広く発信。



↓フェイスブックはこちらのQRコードからご覧頂けます。



<参考> 第10回コンクール受賞団体

大賞 (北海道開発局長表彰)

北のなのはな会 【安平町】



安平町



「菜の花」の再生可能エネルギー資源、観光資源としての可能性を見出し、地域で初めて菜の花の栽培・研究を開始したほか、特産品の製造・販売にまで発展させました。

観光協会等との連携により、「菜の花さんぽ」や「菜の花フォトコンテスト」を開催、観光客向けに毎年の菜の花ほ場を示した菜の花マップもホームページにて公開しています。

ほんべつ豆まかナイト実行委員会 【本別町】



本別町



本別町の特産物である“豆”をテーマに豆の消費拡大や地域活性化を目的として「ほんべつ豆まかナイト」を開催しています。準備・運営段階から関係団体と連携し、町内のコミュニティづくりや人材育成なども目指した実行委員会として活動しています。

イベントで使用する豆の栽培をプロジェクトとし、食育・地域学習の要素も含めるなど、十勝農業継承にも貢献しています。

大賞審査委員特別賞 (大賞審査委員表彰)

えづらファーム 【遠軽町】



「農村や農業の魅力、素晴らしさ」を多くの人に感じてもらいたいとの思いから、畑作経営を中心に様々な地域活性化に繋がる取組を展開しています。

農家民宿の経営、住み込みボランティアの受け入れ、農場アクティビティの提供などを行い、交流人口が増加することにより、地域社会の維持や活性化に大きく貢献しています。

農猿 【南幌町】



地域おこしや地産地消を目的として、町内の若手農業者が集まり活動を開始しています。

現在では、職業の垣根を越えて地域活性化を目指す団体に発展しており、南幌町の魅力を次世代に伝え継承していくために、子ども達に農業のかっこよさを伝えています。

農業体験型イベント「野祭」では、野菜の販売やトラクター展示などを行っています。

ベジタブルワークス株式会社 【真狩村】



真狩村の風土を生かした特別栽培農産物を7種栽培しており、道内はもとより首都圏にも出荷し、農業を収益性のある魅力的な職業にすることを理念としています。

農作物の栽培から、農業機械の開発、自社トラックでの輸送、販売に至るまで、効率的に活動しており、持続可能な農業と働きやすい職場づくりを大切にしています。